

大野浦駅周辺地区整備事業とそのストック効果 (通学路安全安心確保等) の紹介について

廿日市市 建設部 施設整備課

1. はじめに

広島県廿日市市は、「広島県西部」に位置し、政令指定都市「広島市」に隣接した「人口約12万人」、「面積約490km²」、「世界遺産の厳島神社(宮島)」を有するまちです。

市域内には、「中国自動車道・山陽自動車道」の高速道路や国道2号、また「JR山陽本線・広島電鉄宮島線」の2本の鉄軌道などがあり交通の要所となっています。

当市では、交通結節点である山陽本線の駅・広場周辺整備を進めており、市内には6駅(廿日市駅・宮内串戸駅・阿品駅・宮島口駅・前空駅・大野浦駅)ありますが、宮内串戸駅・阿品駅・前空駅については整備が完了し、廿日市駅・大野浦駅が現在整備中あり、宮島口駅についても今後整備していく予定です。

本稿では現在事業中である、大野浦駅周辺地区整備事業について紹介します。



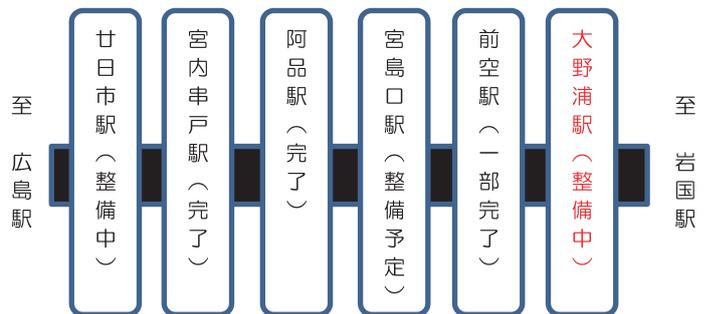
人口：117,195人
(平成27年12月1日現在)

面積：489.36km²

平成15年3月佐伯町、
吉和村と合併
平成17年11月大野町、
宮島町と合併



安芸の宮島 大鳥居



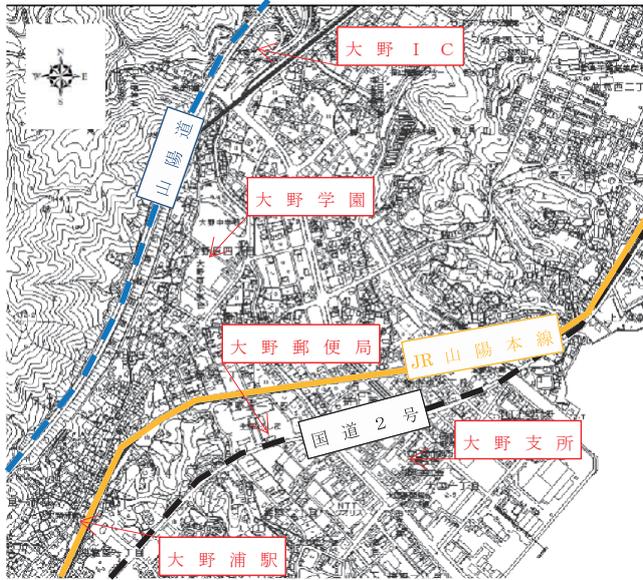
山陽本線駅整備状況 (廿日市内)

2. 大野浦駅の概要

廿日市市西の玄関口である大野浦駅は乗降客数3,212人(平成25年度)となっており、駅周辺地区には、各種行政手続きを行う廿日市市役所大野支所などの官公庁施設をはじめ大野郵便局、集会所、公園などの公共公益施設、各種医院、商業施設など生活に関連する施設が多数立地しています。また、当駅周辺道路は大野学園(大野西小学校・大野中学校)の通学路となっており、通勤通学の時間帯には通学児童をはじめとする多くの歩行者が通行しています。



位置図 (詳細)



大野浦駅周辺図



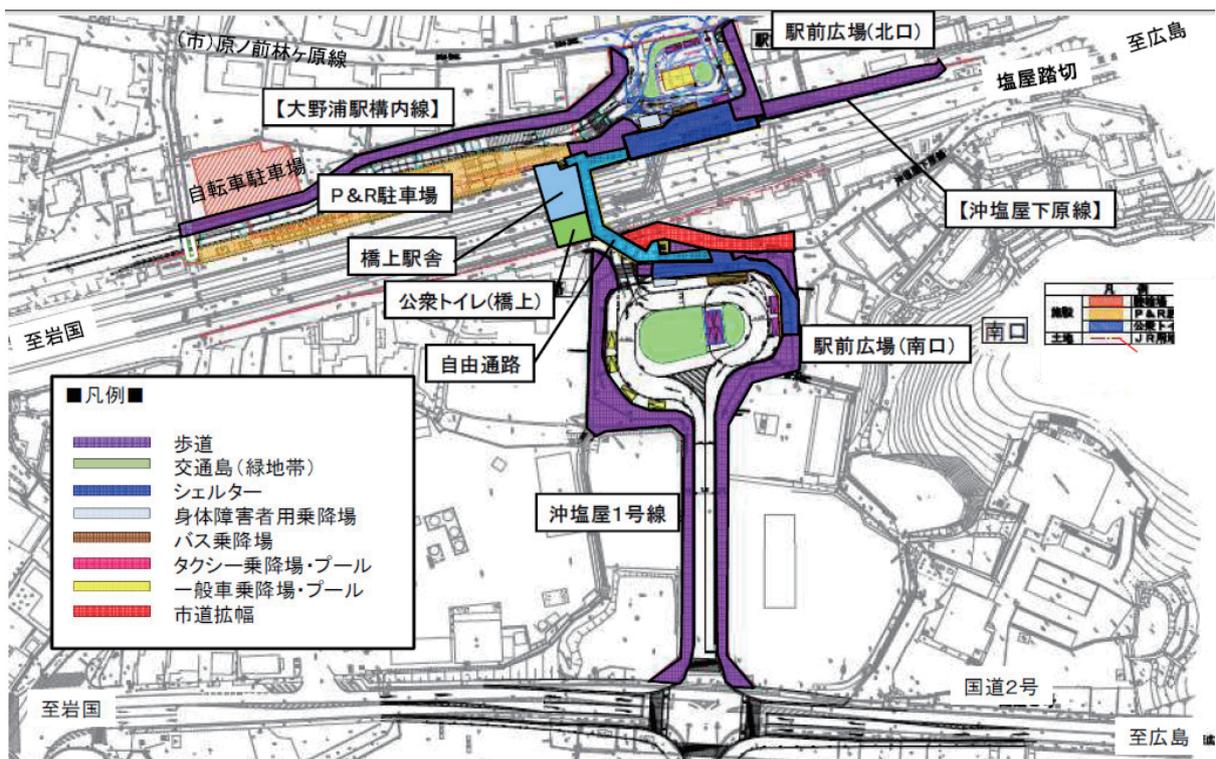
現況写真 (駅北側)



現況写真 (駅南側)

3. 大野浦駅周辺整備事業内容

事業内容については大野浦駅の自由通路等、南北駅前広場、駅へのアクセス道路があり、整備計画図及び詳細について以下に示します。



整備計画図

【大野浦駅】

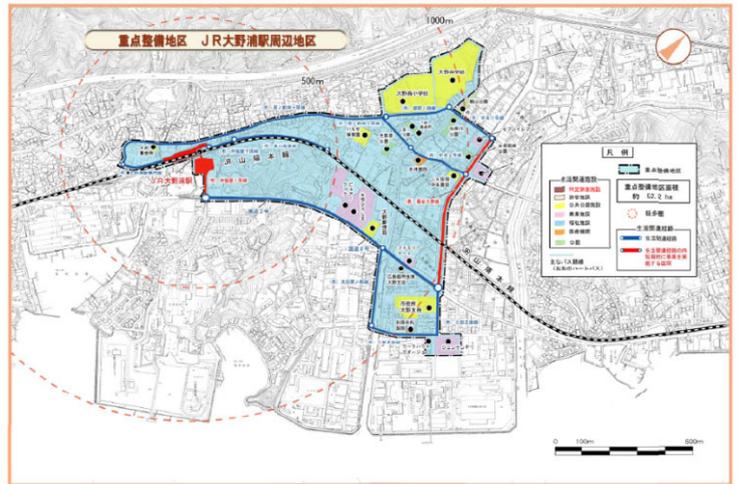
(1) 自由通路等の整備

⇒ 当地区は、JR山陽本線で南北に分断されており、既存駅舎へのアクセスは北側のみとなっているため、南北広場を一体化する自由通路等を整備することにより地区間の連携強化及びアクセス性の向上を図ります。

また、当地区は廿日市市移動円滑化基本構想の重点整備地区に設定しており、施設のバリアフリー化を推進します。

■代表的なバリアフリー施設

- ・エレベータ 2基（内1基は、共用エレベータを採用）
- ・多目的トイレ
- ・視覚障害者誘導ブロック



重点整備計画図（廿日市市移動円滑化基本構想より抜粋）

【駅北側】

(2) 駅前広場（北口）の整備

⇒ 当地区周辺には既に住宅が張り付いており広場面積を広げることは周辺住民への影響が大きく困難であることから、駅舎を軌道上に橋上化することにより広場の拡張を図りました。これにより新駅舎近くにバス乗降場を確保し利便性向上に繋がります。また、各乗降場へシェルターを設置することにより雨に濡れることなく公共交通へ乗り換えられるよう配慮しております。その他、タクシー乗降場・プール、一般車乗降場・プールも整備します。

前述したとおり駅前広場についても施設のバリアフリー化を推進します。

■代表的なバリアフリー施設

- ・身障者専用乗降場
- ・視覚障害者誘導ブロック

(3) 大野浦駅構内線及び沖塩屋下原線（歩道）の整備

⇒ 駅前広場（北口）へのアクセス道である市道原ノ前林ヶ原線の幅員は狭小であり、大野浦駅構内線を整備することにより安全に駅の送迎が可能となり、利便性・アクセス性の向上を図ります。

また、沖塩屋下原線（歩道）においても幅員が狭小であり、歩道拡幅を行なう事により通行人がすれ違う際に譲り合うことなく快適に通行できるようになります。

【駅南側】

(4) 駅前広場（南口）の整備

⇒ 駅前広場（南口）には、幹線道路である国道2号がありますが、国道2号からの駅へのアクセス道は全幅約3mの道路しかなく利用しにくい状況となっていました。国道2号と駅前広場（南口）を結ぶ沖塩屋1号線及び駅前広場（南口）が平成18年にほぼ整備が完了したことにより利便性・アクセス性の向上が図られました。なお、駅前広場（南口）の残事業としては北側同様シェルター、バリ

アフリー設備等があります。

なお、以下の写真が完成した新駅舎のイメージパースとなります。本新駅舎のデザインについては、地域住民の方の意見を取り入れたものとなっております。



駅舎北側



駅舎南側

4. ストック効果（通学路安全安心確保等）について

大野浦駅周辺地区整備事業により以下2点のストック効果が得られます。

(1) 安全・安心な通学路の確保

【課題】

JR 大野浦駅への既存アクセス道である市道原ノ前林ヶ原線は、大野学園の通学路に指定されていますが、幅員が狭小なうえ歩道も設置されていないことから危険な状況にあります。【危険①】

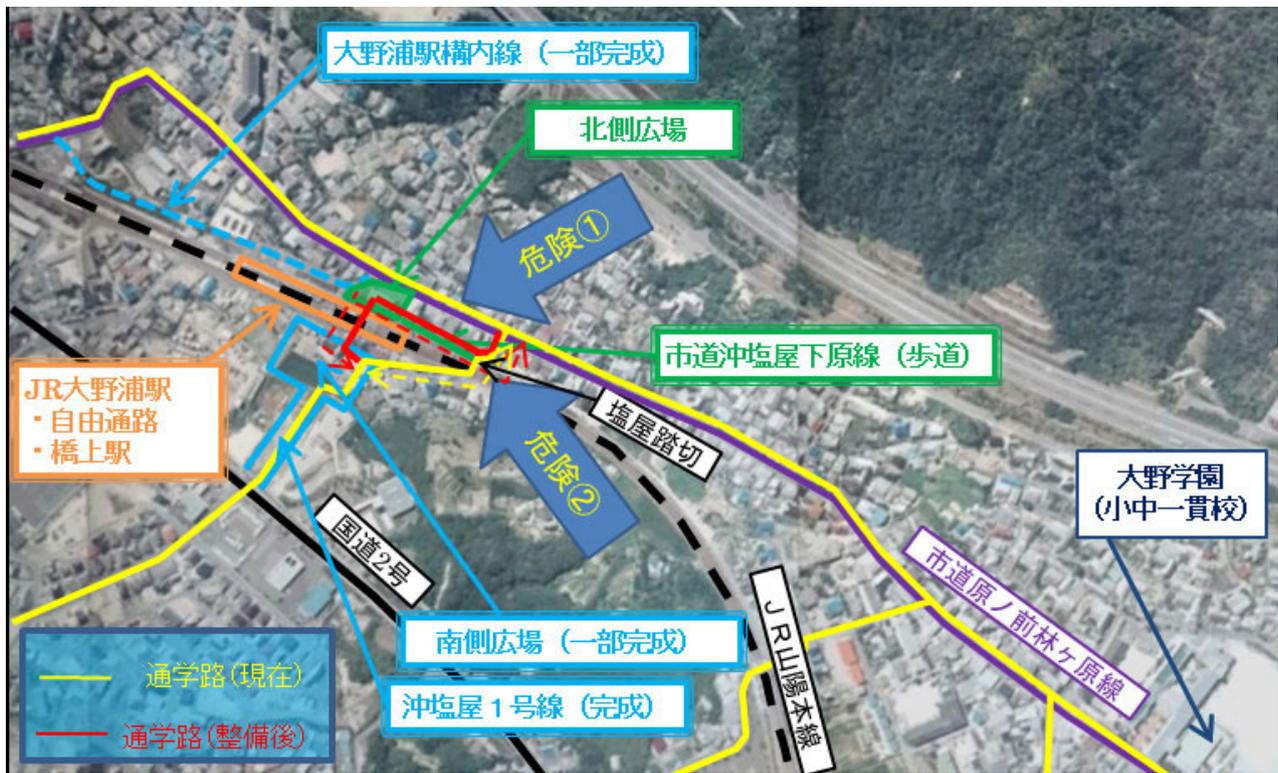
また、駅東側にある塩屋踏切も通学路に指定されていますが、幅員が狭小で歩道も設置されておらず危険です。【危険②】



市道原ノ前林ヶ原線



塩屋踏切



大野浦駅周辺航空写真

【大野浦駅周辺地区整備事業により得られるストック効果】

危険①に対して

駅へのアクセスが南側からも可能となることから北側の自動車利用分担率が減少します。これによりこれまでのアクセス道であった市道原ノ前林ヶ原線の自動車交通量が減少し、大野学園の通学路でもある歩行空間の安全性が向上します。

危険②に対して

JR 大野浦駅自由通路を通行することにより塩屋踏切を通行する必要がなくなり安全に通学できます。

(2) 大野浦駅周辺地区整備事業による付随効果

JR 大野浦駅周辺を整備することにより、交通結節点機能強化、及び観光地までのアクセス性向上を図り、当地域の観光資源である宮浜温泉や妹背の滝等への観光客増加・賑わいの創出に寄与します。

また、駅南側については駅利用ができるようになり、都市的利用が図られます。



妹背の滝



宮浜温泉



大野浦駅周辺図

5. おわりに

大野浦駅周辺地区整備事業は、地域住民の方の様々な意見を取り入れながら事業を進めています。新駅舎デザイン検討だけでなく、甘日市移動円滑化基本構想策定の際にも、駅周辺に居住されている高齢者、障害者の方をはじめ市民の皆さんにご参加いただき、駅及び周辺道路を実際に歩いてバリアフリーに関するタウンウォッチングを行いました。この時出た意見を踏まえてバリアフリー設備の検討を行っています。計画段階から密接に地域住民の方と意見交換しながら事業を進めていることから、地域住民の本事業への関心は非常に高く、事業担当として地元に出る度に早期完成を望む声を聞き、地元悲願の事業であるということを感じます。大野浦駅及びその周辺が整備されることにより、利便性・アクセス性の向上、地区間連結強化、賑わい創出等様々な効果が期待されており事業が早期に完成し効果が発揮できるよう努めたいと考えています。また、昨今通学路の安全対策への関心が高いことから危険個所を少しでも早く解消していけるよう努めたいと考えています。